

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770106991		
法人名	特定非営利活動法人NPO堺市グループホームシステム研究機構		
事業所名	グループホーム アローラ 2F		
所在地	大阪府堺市北区長曾根町3065-1		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成23年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄新金岡駅から徒歩5分という立地条件であるが、静かな環境で全室南向きの明るい部屋になっており、テラスには四季の花々を植え、季節を感じてもらえるようにしている。1階には提携しているクリニックがあり、医療面でも安心していただける。又、日々の生活が楽しく過ごせるように、昼食バイキングの開催やレクレーションを担当制で実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに交通量の多い中央環状線や国道28号線が走っているが、ホーム近辺はマンションや一般住宅が多く閑静な環境にある。3階建てのビルで、1階には協力医療機関のクリニックとデイサービスが入り、当ホームは2~3階にある。又、近隣に整形外科や眼科、耳鼻科などの医療機関が多数存在し医療環境は抜群に良い。理事長の方針で従業員全員が正社員で、働く意欲の向上、しいてはサービスの質の向上を図るべく努力しておられる。共用空間(リビング兼食堂)も広くて明るく清潔感があり、又、全個室南向きでありベランダには季節感を感じてもらおうべくたくさんの花が利用者の手で植えられている。今まで住んでいた自宅の延長線上にあるような工夫が見られる。利用者の表情もおだやかであり、現状に満足されているような印象を受けた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「敬愛・真心・奉仕」を常に意識して介護に取り組めるよう、年頭に提出する今年の抱負について、個別に法人代表者が面談をすることで、徹底を図っている。	従来からの理念である「敬愛・真心・奉仕」に加えて、「地域社会に根付いた介護を目指す」を加えられ、ホームの各ユニットにも掲示し、職員や利用者の家族、地域住民にも理解を求めている。	利用予定者や家族、地域住民が一番よく目を通すパンフレットや、広報紙にも理念を記載することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや北区域夏のつどいなどに参加し、地域住民との交流に努めている。日々の買物には、入居者と一緒に出掛けている。	地域町会の種々イベント(夏祭り他)には参加し、当ホームの主催する納涼祭には地域住民も招待して交流している。当ホームも地域あんしんネットワーク会議に参加し、色々な情報を発信している。地元中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のあんしんネットワーク会議に参加し、民生委員や地域住民の代表者などに、グループホームの特徴や役割などを伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域包括支援センター職員・地域代表者等が集まり、2ヶ月に1度開催している。活動報告だけでなく、意見を伺い、今後の活動に繋げるよう努力している。	行政からは地域包括支援センター、地域からは地区代表者および民生委員(自治会役員)、ホームからは入居者やその家族にも参加してもらい、2ヶ月に1度開催し、ホームの運営上有意義な意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で地域包括支援センターの職員に意見を求めたり、現場で問題が起こった場合には、介護保険課に相談している。	市の介護保険課や地域包括支援センターにはよく出向き、相談ごとにもってもらったり、色々な情報を聞いたりして、ホームの運営に生かしている。	市町村の連携はあるが、一度市の介護相談員を受け入れ、運営上第三者的な意見を聞かれたらいかがかとも思われる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度ごとに必ず身体拘束についての研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。出入り口のオートロックを解除するには至っていないが、職員の移動の際、各階への行き来を入居者と行うように努めている。	毎年研修に必ず取り上げ、身体拘束禁止を徹底している。目標達成計画にも取り上げ、2～3階への移動の自由や玄関のオートロックの解除には安全上至っていないが、軽度の身体拘束に当たることは職員全員充分理解しており、見守りケアに徹するよう努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議やケアマネ連絡会で行われる研修に参加している。職員研修でも虐待について学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で認知症について研修を行い、認知症の人にとって必要である権利擁護に関する研修も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	医療連携体制加算の採択時には、運営推進会議で説明するとともに、家族には文書での説明や面会時にも説明を行い、理解を得るように努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行ったり、運営推進会議で意見を聞く機会を設けている。また、面会時等に頂いた意見も反映できるように、会議で話し合って実行している。	家族はよく来訪されるので、何でも言い易い雰囲気を作り、運営やサービスに関する意見を拝聴している。運営推進会議での発言も多い。利用者からは、寄り添って普段の会話から汲み取る努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で働いているスタッフの意見に耳を傾けるように心がけ、利用者の介護にとって必要な事柄に関しては、改善できるようにしている。	理事長との年頭面談や管理者との個別面談で、職員の要望や意見を聞き出している。月1度の職員会議でも発言してもらっている。もちろん参考になるものは運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長と年頭に面談を行ったり、管理者による個人面談を必要に応じて行うことで個々に意見を述べる機会を作っている。また、その意見を反映し、管理者や主任が主になって働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修だけでなく、外部の研修にも参加できるように、業務の調整を行う様にしている。また、指導する立場の職員には、実践者研修を受けられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月行なわれる地域のグループホーム会議に出席し、問題点や悩み事などを相談したり、意見交換ができる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談では、家族の意向が主になってしまう傾向にある。特に入居後はスタッフ全員で関わる気持ちを持ち、本人の思いを聴くよう心掛け、不安を解消し安心して過ごしてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの介護の苦労や葛藤など、話して下さったことを傾聴し、入居後に起こりうる問題も、一緒に解決していくという姿勢を持ち、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活をしていく上で必要となる支援をスタッフで話し合い、本人の意欲や可能性を見極めながら、敬愛の精神を忘れずに、共に生活をする仲間として接していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしているという意識ではなく、共に生活している者として接し、一緒に料理を作ったり洗濯物をたたんだりする中で、今までの暮らしや不安に思っているなどを聴き取るようにする姿勢を持つよう心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の支援は職員が主となるが、誕生日会や行事には参加してもらえるように働きかけ、家族との関わりが途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られたり、通いなれていたスーパーと一緒にいくことで、知り合いと会い、会話を楽しまれるなどしている。	昔馴染みの友人や場所で楽しいひと時を過ごすのは非常によいケアの一つで、当ホームでも目標達成計画に取り上げ努力している。家族の協力が必須であり聞き出すようになっている。併設しているデイサービスにも昔馴染みの利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の人間関係を周知し、利用者同士が良い関係を築けるとともに、一緒に過ごせる機会を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者のこれまでの状況や転居後に起こりうるであろう事柄について、転居先の関係者に情報を伝えている。又、退居(入院後死亡)された妻の姉が入居されている例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中で発せられる意向や希望、入居者が自然と取られる行動も見逃さないようにし、本人の望む生活に近づけられるように努めている。	利用希望者との最初の面談時、ホーム見学を勧め、不安を取り除く工夫をしている。そして今までの暮らし方を把握し、入居後の暮らし方の希望を聞き出し、アセスメントシートにまとめ職員全員で共有している。入居後は何気ない会話の中から、思いや不満を聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接だけでは知ることができない細かい部分は、書類を家族に記入してもらったり、また入居後に聴き取るように努め、その人らしい暮らしに近づけられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者が中心となり、職員間で知れた入居者の情報を共有すると共に、カンファレンスで話し合っ現状の把握・改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で感じ取れる変化や家族の要望を聴きだけでなく、本人の生活に関する意向も聞き取るように努め、カンファレンスで意見を出し合っ計画の作成をしている。	本人本位のケアプランを立てるため、アセスメントシートを参考に、本人をよく知る職員を中心にカンファレンスを行って作成している。モニタリングも定期的に行い、3ヶ月ごとにケアプランの変更の必要性をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の行動や発せられた言葉を記録することで、本人の思いや今後のケアの在り方のヒントとし、また実践した内容を記録しモニタリングが的確に行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や入浴など、その日の予定以外の希望を言われる方もあるが、できるだけ思いを叶えられるように、業務内容の変更を行って時間を作り、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員や地域代表でボランティアの方が出席しており、入居者が参加できる行事を聞き、参加している。また、プロバスクラブから、歌のボランティアに来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の確認を行っている。1階にある提携クリニックから定期的に診察を受けたり、状態に変化があれば、すぐに診てもらっている。また必要であれば、専門医の受診ができるように支援している。	入居時かかりつけ医の確認を行い、施設1階にある提携クリニックをかかりつけ医として、定期的に診察を受けている。主治医との連携を密に取れる体制を整え、適切な医療を受けられるようになっている。希望により専門医の受診もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回は、看護師による健康管理を行っており、気になることがあれば24時間対応で相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は環境が変わり、不安になられるため、本人の入居中の情報を医療機関に伝え、安心して治療に望めるようにしている。また、早期に退院できるように、相談員や看護師などと連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を整えており、重度化した場合は、家族や本人、医療関係者と意向を確認し、その時に応じた介護が提供できるようにしている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作り、本人・家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医、看護師、家族、職員間で話し合い方針を共有し、ご本人様にとって必要な支援に取り組むよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応について、職員研修で定期的に研修しており、マニュアルを作成して慌てず対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署を交えての訓練だけでなく、毎月、各階で自主消防訓練を行っており、職員だけでなく入居者も素早く非難できるようになってきている。また、災害用の備蓄品も備えている。	火災避難訓練については消防署との連携は出来ており、事業所独自の訓練も行い、事業所は鉄筋の建物で耐震は十分であり、地域の避難場所として届け指定されている。備蓄も確保されている。	火災避難訓練は行われているが、今後は大地震に対する対策も必要と思われる。消防署と相談することを勧めたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシーに関しての研修を行ない、理念である敬愛の精神で言葉かけをすることで、人格を尊重した対応を心掛けている。	研修は毎年行っている。尊厳に配慮した言葉掛けや対応を心掛けている。記録や個人情報の取り扱いについても注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分が思っていることを話せる環境作りを心がけ、たとえ叶えられないような希望であっても、本人と話をして自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、起きたい時に起き、寝たい時に寝てもらっている。食事の時間も、その時に応じて変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類のアドバイスはするが、自分で選んだ服を着てもらっている。また、理美容を利用する際は、髪型は自分で決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを書いてもらうことから始め、米とぎや味噌汁などを作ってもらっている。バイキングの日には、ぎょうざを包んだり、お好み焼きを焼いてもらうなど、その人ができることに参加してもらえるように工夫している。	副食材は業者より半調理で配送されるが、主食、味噌汁は施設で利用者と共に作っている。以前お惣菜屋を営なまれていた利用者は常に作るのを楽しみに手伝われる。月1回のバイキングの盛りつけの役割は利用者をお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し、その人に必要な栄養が摂れているかを確認している。食事の好みもあり、食べられないおかずの時は、別のおかずを作ったりして、栄養が偏らないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週訪問してくれている歯科衛生士の指導や必要に応じて訪問歯科の治療を受けている。食堂に各利用者のハブラシやコップを用意し、食後の歯磨きをしてもらいやすいようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に介助がいる利用者には、トイレに行った時間やその時の様子などを記録することで、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	利用者の行動を常に把握し、利用者ごとの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行って出来るだけ自立で排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者には、主治医や看護師と相談し、食事の改善や朝にお水を飲むなど予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている利用者が多く、できるだけ入ってもらえるようにしている。同性介助を希望される人もおられるため、シフトを確認して前もって希望の日を聞くようにしている。	利用者の希望に添った入浴支援を行い、最低でも週3回は入浴出来るよう支援している。入浴を嫌がる人には”体重をはかりに行きましょう”等と誘い、入浴時の会話も大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせるだけでなく、その日の体調や活動状況を把握して、就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用の薬ファイルを作り、スタッフが服薬内容や副作用などを確認できるようにしている。また、薬の変更があればすぐに、連絡ノートに記載・口頭の申し送りをし、適切に服薬ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを通じて生活歴を把握し、その人にとって充実した日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと施設の買物だけでなく、本人の欲しい物を一緒に買いに行ったりしている。また、近所の公園に散歩に出かけたり、ボランティアの協力のもと、大泉緑地に皆で出かけることもある。	買い物に行く事が日々の楽しい散歩となっている。近隣の公園・四季折々の花見・初詣等特別な外出支援を頻繁に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いを持っている人は、自分の欲しいものを自分で払ってもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	心配事があったり、何かを伝えたいことがあると言われる時には、部屋で家族に電話してもらえるようにしている。また、正月には家族様宛に年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温などに配慮し、落ち着いて過ごせるようにしている。テラスには、四季の花々が鑑賞でき、季節感を感じてもらえるようにしている。	食堂の横には大きなベランダがあり、花・菜園・ベンチが置かれ、バイク・おやつ等に利用されている。廊下には写真や手作り作品が飾られ、大きな窓の有るリビングはソファが置かれている、思い思いに自由に過ごせる場所を用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や談話室では、気の合う人と話をしたりトランプをして過ごしている。輪の中へ入ってもらうだけでなく、一人で過ごしたい様子が見られれば、静かに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具を持ってきていただき、入居前の生活に少しでも近づけることで安心して過ごせるようにしている。また仏壇を持ってきている人もいる。	居室は南向きに作られゆったりとしており、馴染みのタンス・家具・仏壇・思い出の写真・手作り作品が飾られ入所前の雰囲気作りを工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩きやすい広さの廊下や手すりの設置により、自由に行き来している。トイレの場所がわからない人のために案内表示をつけている。		